

□主な内容

【第11回EST交通環境大賞ダイジェストを追加掲載】

第11回EST交通環境大賞ダイジェストとして、取り組み概要と受賞団体コメントを追加掲載しました。

http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2019_02.html

【第 10 回地域の交通環境対策推進者養成研修会は 2021 年度に松山市で開催予定】

EST 普及推進委員会および(公財)交通エコロジー・モビリティ財団は、地方運輸局や自治体と協力し、自治体の実務担当者などを対象として、体験型の人材養成研修会を開催しています。第 10 回目今回は、2021 年度に 3 日間、松山市にて開催予定です。

<http://www.estfukyu.jp/training2021.html>

□目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 169 回)

- 「ライフスタイルの多様化が環境的に持続可能性な社会を実現する」

【名城大学 教授 鈴木 温】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 169 回)

- 「新バスシステム導入を契機とした持続可能な交通システムへの展開について」

【新潟市 都市政策部 都市交通政策課 課長 坂井 秋樹】

【新潟交通株式会社 企画調整課 課長 渡辺 健】

3. ニュース／トピックス

- 第11回EST交通環境大賞ダイジェストとして取り組み概要と受賞団体コメントを追加掲載しました【EST普及推進委員会、エコモ財団】
- 第10回地域の交通環境対策推進者養成研修会は2021年度に松山市で開催予定です【EST普及推進委員会、エコモ財団】
- 令和2年度SDGs未来都市の選定について【内閣府】
- スマートシティモデルプロジェクトを追加選定 ～いよいよ社会実装ステージへ～【国土交通省】
- 未来技術社会実装事業(令和2年度選定)について【内閣府】

- 日本版MaaSの取組を加速！ ～新たなMaaSの構築を牽引するモデルプロジェクト38事業を選定～【国土交通省】
- モーダルシフトにより発災時の安定供給の維持や荷主間の連携を推進する等、計13件に補助金交付を決定 ～令和2年度「モーダルシフト等推進事業費補助金」の認定及び交付決定～【国土交通省】
- 第39回「エコレールマーク運営・審査委員会」において、認定商品として2件を新たに認定することが決定されました【国土交通省】
- 内閣府未来技術社会実装事業と連携した自動運転サービス導入支援事業について(選定)【国土交通省】
- 自動運転に対応した新たな検査手法を導入します！！ ～道路運送車両の保安基準の細目を定める告示等の一部改正について～【国土交通省】
- 令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(交通システムの低炭素化と利用促進に向けた設備整備事業)の二次公募について【環境省】
- 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 ～脱コロナに向けた協生支援金～【内閣府】
- 交通事業者に対する自治体からの支援例【新型コロナウイルスによる交通崩壊を防げ！特設サイト】
- 日本版MaaSの取組を加速！ ～会津Samurai MaaSプロジェクトがモデルプロジェクトに選定されました～【東北運輸局】
- 引越荷物を鉄道で運びます。(株)アップル運輸等4社による鉄道モーダルシフトについて物流の総合効率化計画を認定！ ～引越荷物のモーダルシフトとしては全国初めての認定～【北陸信越運輸局】
- バス実態調査とデータ活用方法が丸わかり！“バスデータ活用大百科”を公開しました【中部運輸局】
- 貸切バス“新型コロナウイルス感染症対策PRイベント”が開催されました【中部運輸局】
- 神戸電鉄粟生線 三木駅デザイン総選挙！！完成予想図公開中【三木市】
- 亘理町デマンド型乗合タクシー「わたりん号」を運行します【亘理町】
- アイシンググループと愛知県岡崎市が包括連携協定を締結 ～岡崎市の住みよいまちづくりに向け、アイシンググループが持つ技術やノウハウを活用した様々なサービスの提案や実証実験を進めていく～【岡崎市、アイシン精機、アイシン・エイ・ダブリュ】
- タクシーによる買物代行事業のトライアル(試行運用)を実施します【つくば市】
- タクシーによる買物等の代行サービスが1回500円でご利用できます！！お買物やテイクアウトの受取など、タクシーがお手伝い！！【五條市】
- 蒲郡市と日産自動車、電気自動車を活用した「災害連携協定」を締結【蒲郡市、日産自動車、東愛知日産自動車】

- 所沢市と日産自動車、電気自動車を柱とする連携協定を締結 ～電気自動車の活用によりSDGs達成に貢献～【所沢市、日産自動車、埼玉日産自動車、日産サテオ埼玉、日産プリンス埼玉販売】
- 小田原市と日産自動車、持続可能な地域社会、SDGsの達成に向けた連携を発表【小田原市、日産自動車、神奈川日産自動車、日産サテオ湘南、日産プリンス神奈川販売】
- 豊橋市と日産自動車、電気自動車を活用した「災害連携協定」を締結【豊橋市、日産自動車、東愛知日産自動車】
- 陸前高田市、日産自動車、東北、「電気自動車を活用した持続可能なまちづくりに関する連携協定」を締結～東日本大震災から10年を迎える復興のまちでの、安心・安全なまちづくり推進～【陸前高田市、日産自動車、岩手日産自動車、盛岡日産モーター、日産プリンス岩手販売、日産チェリー岩手販売、東北】
- 三菱自動車、北海道音更町と災害時協力協定を締結【音更町、三菱自動車、帯広三菱自動車販売、十勝三菱自動車販売】
- PASMO、2020年中にApple Pay™へ対応します ～iPhoneやApple Watchで、「PASMO」をより便利に～【PASMO協議会】
- ピクサーデザインの新幹線が9月12日(土)より運行開始！『GO！WAKU WAKU ADVENTURE with PIXAR』【JR九州】
- 阪急×阪神×東急が協働 ラッピング列車「SDGsトレイン2020」を9月8日(火)より運行します！ ～再生可能エネルギー100%の列車で、SDGsの達成に向け多様なメッセージを発信～【阪急阪神ホールディングス、東急グループ】
- お客様により安心してご利用いただくために全車両に抗菌・抗ウイルス加工を実施します【京成電鉄】
- 日本で初めて公共交通機関の車内にVisaのタッチ決済を導入！ ～Visaのタッチ決済、茨城交通の高速バスで利用可能に～【三井住友カード、ビザ・ワールドワイド・ジャパン】
- 「WAON」を活用した路線バス運賃決済サービスなどが評価「北海道公共交通利用促進運動」の表彰について【イオン北海道】
- 信州大学とWILLERが地域モビリティシステムの共同研究を開始 ～実用性の高いサービス実現を目指し、長野県内市町村に向けたMaaSソリューションを提案～【信州大学、WILLER】
- 三菱ふそう 新しい生活様式に対応する大型路線バスへの新型コロナウイルス対策：雨天時の車内換気を促進するウィンドバイザーを発売【三菱ふそうトラック・バス】
- 「道の駅なみえ」に純水素燃料電池システム「H2Rex™」を納入 ～「福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)」からの水素を活用～【東芝エネルギーシステムズ】
- 電気自動車をバーチャルパワープラントのリソースとして活用するV2Gビジネス実証事業の試験運転開始について【東京電力パワーグリッド、三菱自動車、日立システムズパワーサービス、静岡ガス】

- 日産自動車、横浜みなとみらいに、体験型エンターテインメント施設「ニッサン パビリオン」をオープン【日産自動車】
- 密を避けた移動の選択肢にシェアサイクルを。複合経路検索サイト「mixway」、新機能リリース ～「自転車の利用距離の設定」「シェアサイクル利用経路だけ探す」機能を実装～【ヴァル研究所】
- NY 市長 レストランの屋外飲食プログラムを来年も実施することを発表【ニューヨーク市】

4. イベント情報

- エコプロ Online2020 ～持続可能な社会の実現に向けて～【2020/11/25-28】
- 第 18 回 ITS シンポジウム 2020 新たな価値を創造する ITS ～安全、安心、豊かな地域社会の実現に向けて～【2020/12/10-11】
- 第 27 回鉄道技術・政策連合シンポジウム(J-RAIL2020)【2020/12/15-17】
- 長野電鉄 こども(小学生)無料乗車デー【2021/1/1-3】

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！
- 「運輸・交通と環境」を発行しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 169 回)

●「ライフスタイルの多様化が環境的に持続可能性な社会を実現する」

【名城大学 教授 鈴木 温】

COVID-19 の感染者が増加し始めた今年 3 月頃から、これまでの日常生活が少しずつ変わり始め、特に 4 月 7 日の緊急事態宣言以降は、人々の行動が大きく変わったことがデータからうかがえる。携帯電話の位置情報や鉄道駅の自動改札出場者数等による人流データ¹⁾によると、首都圏の主要駅やその周辺などでは、最も人出が減少した 4 月末頃には前年の 2～3 割程度まで人流が落ち込んでいた。その後、徐々に回復してきているものの、7 月現在でも東京の主要駅周辺等では、前年同月比の 5 割～6 割程度となっている。外出自粛によって、働き方も大きく変わった。テレワークやオンライン会議は当たり前になり、オンライン飲み会も流行した。

今回のウイルスの特徴の一つは、全世界で感染が拡大したことであるが、多くの感染者を出し、ロックダウンも経験した欧米の主要都市では、自転車道や歩道を整備する動きが進行している。パリ、ベルリン、ミラノ、ニューヨーク等の欧米の各都市では、車道の一部を自転車レーンや歩道に転換した。オーストラリアのメルボルンでも今後、全長 40 km の自転車レーンの整備や駐車スペース等の撤去が計画されているという。

我が国では特に、これまで多くの人が大都市に住み、長い時間をかけて職場まで通勤し、同じ職場で一斉に働くことがルーティン化していた。しかし、この数か月で働く場所の選択肢が広がり、自転車や徒歩での移動や時差通勤へのシフト等、移動手段も多様化した。これにより、通勤時間が減少し、家族と過ごす時間が増え、鉄道やバスの混雑が緩和した。内閣府の調査²⁾によると、東京 23 区に住む 20 歳代のうち、35.4%の人が今回の感染症の影響下において、以前よりも地方移住への関心が高まったと回答している。今回のコロナ禍によって、図らずも人々はライフスタイルの多様化による恩恵を経験した。この経験をきっかけとして、ライフスタイルの多様化を継続的に許容する社会のあり方を構想することが、人にとっても環境的にも持続可能な社会へ近づけていくヒントになるのではないだろうか。

参考文献

1)内閣官房 HP、<https://corona.go.jp/dashboard/>

2)内閣府：新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査、<https://www5.cao.go.jp/keizai2/manzoku/pdf/shiryo2.pdf>

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 169 回)

●「新バスシステム導入を契機とした持続可能な交通システムへの展開について」

【新潟市 都市政策部 都市交通政策課 課長 坂井 秋樹】

【新潟交通株式会社 企画調整課 課長 渡辺 健】

新潟市では、平成 19 年の政令市移行を機に、交通政策の基本理念と行動計画をとりまとめた「にいがた交通戦略プラン」を平成 20 年に策定し、拠点間を公共交通体系で連携する“田園に包まれた多核連携型都市”を目指し取り組みを進めてきました。

この一環として、平成 19～24 年度には、オムニバスタウン事業により人と環境にやさしいバス利用環境の実現のため、官民連携によるバス停上屋の整備をはじめ、基幹バス路線やバス IC カード「りゅーと」の導入等により、バス利用環境の向上を図りました。

また、平成 24 年度からの 4 年間の社会実験を経て、65 歳以上の高齢者の外出を促進し健康増進や消費活動の活性化を図るため、バス運賃を半額とする「シニア半わり」を本格的に事業化しました。

そのようななか、平成 27 年 9 月にバス交通を持続させるための抜本的な取り組みとして、都心部での BRT 導入とゾーンバスシステムによる全市的な路線再編からなる「新バスシステム」を開始しました。

この取り組みにより、まちなかでの効率的なバス運行を実現し、余剰となったバス車両や運転士を他路線の拡充に充てたことで、郊外から都心部へのアクセス路線を拡充しました。併せて、郊外では生活路線を支えるコミュニティバスの充実に向けた投資や施策展開を進め、市内全域のバス交通の充実が図られました。

また、平成 22 年度に交通事業者や国、県などとともに「新潟市 MM 推進協議会」を立ち上げ、モビリティ・マネジメントにも注力し、ノーマイカーデーの実施や、公共交通の未利用者に対し、分かりやすく利用方法をまとめた冊子「トリセツ」の作成などを行ってきました。

以上のように、市域全体のバス交通体系を抜本的に見直し、バス利用環境の向上を図ったことや、市民への公共交通の利用促進に向けた意識啓発に積極的に取り組んだことで、長く減少し続けてきたバス利用者数は増加に転じ、過度な自家用車利用から公共交通利用への転換が促進されたことで、環境負荷の低減につながりました。

一方、新型コロナウイルス感染症の影響で利用者数が大幅に減少するなど、バス交通を取り巻く環境は非常に厳しさを増すなか、感染拡大防止策を講じながら事業を継続する必要があり、バス交通のあり方は大きな転換期を迎えています。

このような厳しい状況に寄り添いながら、新潟市と新潟交通株式会社は連携することで、今後も環境負荷軽減を図り、環境的にも社会的にも持続可能な公共交通体系を目指していきます。



萬代橋を走る連節バス

(参考) 新潟市、新潟交通株式会社が優秀賞を受賞された「第11回EST交通環境大賞」
受賞団体の決定については、以下のページに掲載しています。

http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2019_02.html

3. ニュース／トピックス

●第11回EST交通環境大賞ダイジェストとして取り組み概要と受賞団体コメントを追加掲載しました【EST普及推進委員会、エコモ財団】

EST普及推進委員会は、「第11回EST交通環境大賞」(主催:EST普及推進委員会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団、後援:国土交通省、警察庁、環境省、一般社団法人日本自動車工業会、公益社団法人日本バス協会、一般社団法人日本民営鉄道協会)の各賞を決定し、大賞ダイジェストとして、取り組み概要と受賞団体コメントを追加掲載しました。

http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2019_02.html

●第10回地域の交通環境対策推進者養成研修会は2021年度に松山市で開催予定です【EST普及推進委員会、エコモ財団】

地域の交通と環境に関わる課題を解決するためには、その地域で交通環境対策を主導する人材が不可欠です。そこで、EST普及推進委員会および公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団は、地方運輸局や積極的に交通環境対策を実施している自治体と協力し、自治体の実務担当者などを対象として、現場見学、グループワーク、有識者との意見交換などを盛り込んだ体験型の人材養成研修会を開催しています。

第10回目今回は、2021年度に3日間、愛媛県松山市を研修地域として開催する予定です。

<http://www.estfukyu.jp/training2021.html>

また、「第9回地域の交通環境対策推進者養成研修会の開催結果」として、前回の写真や資料、アンケート結果等をまとめた資料を追加掲載しました。

<http://www.estfukyu.jp/training2019.html>

●令和2年度SDGs未来都市の選定について【内閣府】

内閣府は、令和2年度「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」を選定しました。今回で3度目となるSDGs未来都市の選定では、77都市から応募があり、その中からSDGsの達成に貢献する優れた取組を提案した33都市(34自治体)※が、令和2年度の「SDGs未来都市」として選定されました。また、中でも特に先導的な取組として、10都市(11自治体)※による提案が「自治体SDGsモデル事業」として選定されました。

今回の選定の結果、「SDGs未来都市」が93都市(94自治体)※となり、その内「自治体SDGsモデル事業」が30都市(31自治体)※となりました。

内閣府では2024年までに210都市の「SDGs未来都市」を選定することを目標に掲げており、引き続き地方創生SDGsを通じた各地域の課題解決に向けた取組を支援するとともに、成功事例の普及展開等を後押ししていくこととしています。

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/kankyo/teian/sdgs_2020sentei.html

※大阪府・大阪市の共同による提案を「1 都市」として選定しています。

●スマートシティモデルプロジェクトを追加選定 ～いよいよ社会実装ステージへ～【国土交通省】

デジタル化に向けた国際的な競争が激化している中、我が国においては、先進的技術をまちづくりに活かすスマートシティのモデルを早期に実現し、全国に展開していく段階へと進むことが必要です。

このような認識のもと、国土交通省においては、昨年度に続きモデルプロジェクトの公募を実施し、有識者の意見を聴取し、先駆的であることに加え、早期の社会実装が見込まれる7つのモデルプロジェクト等を選定しました。

国土交通省ではこれらのプロジェクトの一刻も早い社会実装を目指し、官民連携プラットフォームの枠組みのもと、関係府省とも連携しながら支援が行われます。

https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi07_hh_000159.html

●未来技術社会実装事業(令和2年度選定)について【内閣府】

「未来技術社会実装事業」は、AI、IoT や自動運転、ドローン等の未来技術の実装による新しい地方創生を目指し、地方創生の観点から革新的で、先導性と横展開可能性等に優れた提案について、各種交付金、補助金等の支援に加え、社会実装に向けた現地支援体制を構築するなど、関係省庁による総合的な支援を行うものであり、スマートシティ関連事業として取り組んでおります。平成30年度より、未来技術社会実装事業として22事業の支援を実施しているところであり、選定事業毎に地域実装協議会を組織し、社会実装に向けたワンストップ支援を実施しております。

今般、地方公共団体から応募いただいた事業について、事業内容、期待される効果、地方創生への寄与(革新性、先導性、横展開可能性)等に優れた事業について、12事業を選定いたしました。

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/kinmirai/sentei_20200731.html

●日本版MaaSの取組を加速！ ～新たなMaaSの構築を牽引するモデルプロジェクト38事業を選定～【国土交通省】

国土交通省では、地域の課題解決に資するMaaSのモデル構築を図る「日本版MaaS推進・支援事業」について、4月17日～6月30日にかけて公募を行い、有識者の意見も踏まえ、交通以外の分野と連携し、地域課題の解決に寄与することが見込まれ、新たなMaaSのモデルとなり得る38事業を選定しました。これにより、日本版MaaSの推進に取り組む地域がさらに拡大します。

国土交通省では、関係府省とも連携を図りつつ、日本版MaaSの実現に向けた取組への支援が行われます。

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000190.html

●モーダルシフトにより発災時の安定供給の維持や荷主間の連携を推進する等、計13件に補助金交付を決定 ～令和2年度「モーダルシフト等推進事業費補助金」の認定及び交付決定～【国土交通省】

国土交通省は、令和2年度「モーダルシフト等推進事業費補助金」の応募案件について、計画策定経費補助8件、運行経費補助5件の認定及び交付決定を行いました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000519.html

●第39回「エコルールマーク運営・審査委員会」において、認定商品として2件を新たに認定することが決定されました【国土交通省】

エコルールマーク制度は、地球環境に優しい鉄道貨物輸送を一定以上利用している商品又は企業に対して、国土交通省が「エコルールマーク」の認定を行い、マークの表示によって消費者に判断基準を提供する制度です。「エコルールマーク」の表示された商品等を通じて、流通過程において企業が地球環境問題に貢献していることを消費者が意識し、企業の鉄道貨物輸送へのモーダルシフトを促進することを目的としています。そこで、エコルールマークの認定商品として2件が認定されました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/tetsudo05_hh_000097.html

●内閣府未来技術社会実装事業と連携した自動運転サービス導入支援事業について(選定)【国土交通省】

国土交通省は、内閣府と連携して、自動運転サービス導入を目指す市町村による実装を見据えた計画策定等の支援をしていくこととしています。

それに伴い、支援の対象となる地方公共団体が、内閣府未来技術社会実装事業の手続きに基づき、選定されました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001348.html

●自動運転に対応した新たな検査手法を導入します！！ ～道路運送車両の保安基準の細目を定める告示等の一部改正について～【国土交通省】

国土交通省は、自動車の検査(車検)において、自動ブレーキ等の自動運転技術等に用いられる電子制御装置の、目に見えない故障に対応するための電子的な検査を2024年10月から開始することとしました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha09_hh_000255.html

●令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(交通システムの低炭素化と利用促進に向けた設備整備事業)の二次公募について【環境省】

令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(交通システムの低炭素化と利用促進に向けた設備整備事業)の執行団体である(一社)地域循環共生社会連携協会が、

当該補助金の公募を開始しました。公募実施期間は、2020年8月17日から9月11日までです。

<http://www.env.go.jp/press/108312.html>

●新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 ～脱コロナに向けた協生支援金～【内閣府】

内閣府では、新型コロナ対策に奔走する地方公共団体の取組を支援するため、令和2年度第1次補正予算で1兆円、第2次補正予算で2兆円の地方創生臨時交付金を確保しました。コロナ対応のための取組である限り、自由にお使いいただくことができますが、これから始まる第2次補正予算分の実施計画の策定では、少しでも多くの金額を、将来を見据えた取組にご活用いただきたいと考え、政策資料集なども、あわせて公開したところです。

第1次補正予算分については、令和2年5月29日までに全1,788地方公共団体から実施計画が提出されました。現在、各地方公共団体において、第2次補正予算分について実施計画を策定しています。

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/rinjikoufukin/index.html>

●交通事業者に対する自治体からの支援例【新型コロナウイルスによる交通崩壊を防げ！特設サイト】

「新型コロナウイルスによる交通崩壊を防げ！」特設サイトでは、地方自治体が交通事業者に対し行っている支援例について紹介します。支援内容については、事業継続や感染防止対策のための資金的な支援の他にも、交通事業者の運行情報や感染防止策をまとめて掲載するなどの広報支援も有効です。

<https://covid19transit.jp/finance/support-gov/>

●日本版 MaaS の取組を加速！ ～会津 Samurai MaaS プロジェクトがモデルプロジェクトに選定されました～【東北運輸局】

地域の課題解決に資する MaaS のモデル構築を図る「日本版 MaaS 推進・支援事業」について 38 事業を国土交通省が選定し、その一つとして「会津 Samurai MaaS プロジェクト」が選定されました。

東北運輸局では、会津 Samurai MaaS プロジェクト協議会と連携を図りつつ、日本版 MaaS の実現に向けた取組への支援が行われます。

<https://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/puresu/puresu/kk200731.pdf>

●引越荷物を鉄道で運びます。(株)アップル運輸等 4 社による鉄道モーダルシフトについて物流の総合効率化計画を認定！ ～引越荷物のモーダルシフトとしては全国初めての認定～【北陸信越運輸局】

国土交通省は、2020年8月3日付けで株式会社アップル運輸、長野運送株式会社、善光寺白馬電鉄株式会社、日本貨物鉄道株式会社の4社から共同で申請のあった総合効率化計画について、物流総合効率化法第4条第4項の規定により認定しました。

<https://www.tb.mlit.go.jp/hokushin/content/000168949.pdf>

●バス実態調査とデータ活用方法が丸わかり！“バスデータ活用大百科”を公開しました【中部運輸局】

中部運輸局では、乗合バス事業及び自治体等のコミュニティバス事業において、更なる利用者増と輸送の効率化を含む生産性向上を図るために、必要な利用実態の把握及びデータ活用について『バスデータ活用大百科』として冊子に取りまとめました。

<https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/library/>

●貸切バス“新型コロナウイルス感染症対策 PR イベント”が開催されました【中部運輸局】

貸切バスは、新型コロナウイルス感染症の影響により輸送需要が激減し、業界全体が大打撃を受けています。中部運輸局管内では、バス協会が旅行業協会と連携して安全・安心な貸切バス観光旅行の実現に向けて、最新鋭のバスの車内換気性能や新型コロナウイルス感染症防止対策のPRイベントが開催されました(愛知:2020年7月30日、静岡:8月2日)。

https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/report/katudou20200802_01/katudou20200802_01.html

●神戸電鉄粟生線 三木駅デザイン総選挙！！完成予想図公開中【三木市】

昭和13年の開業以来、80年もの間、住民に愛され親しまれてきた三木駅舎は、2018年3月の火災により焼失しましたが、これまで以上に安全で快適な駅の再生を図るため、新駅舎が整備されます。今後も変わらず皆様に愛着を持っていただく駅とするため、新駅舎の整備に先立ち、新駅舎の外観デザイン投票を実施しています。投票期間は8月15日から9月15日です。

<https://www.city.miki.lg.jp/soshiki/39/23080.html>

●亘理町デマンド型乗合タクシー「わたりん号」を運行します【亘理町】

亘理町では、公共交通が通っていない公共交通空白地域の解消や、交通弱者の移動手段の確保を目的に、デマンド型乗合タクシー「わたりん号」を8月3日より運行しています。

<https://www.town.watari.miyagi.jp/index.cfm/28,44414,72,html>

●アイシングループと愛知県岡崎市が包括連携協定を締結 ～岡崎市の住みよいまちづくりに向け、アイシングループが持つ技術やノウハウを活用した様々なサービスの提案や実証実験を進めていく～【岡崎市、アイシン精機、アイシン・エイ・ダブリュ】

アイシン精機と、アイシン・エイ・ダブリュ株式会社は、自治体が抱える様々な社会課題解決に向け、自治体と連携を強化し、一緒になって課題解決していくため、岡崎市と包括連携協定を締結しました。

<https://www.aisin.co.jp/newsroom/newsrelease/entry.html?id=12270>

●タクシーによる買物代行事業のトライアル(試行運用)を実施します【つくば市】

つくば市は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、市民の皆様の買い物を支援します。本事業は、市内小売店及びタクシー事業者と連携し、タクシー事業者が「市民から電話で依頼された買物を行い、市内の自宅に配送する」事業となります。市民の外出による感染防止、売上減少が大きいタクシー事業者の支援、店舗での3密回避を狙いとしています。

株式会社カスミと市内タクシー事業者と協力し、買物代行事業を今後効果的に行うため、課題やニーズ等を把握するトライアル期間を約1カ月間設けます。トライアル期間は、市が買物代行1回につき1,000円をタクシー事業者に助成し、利用料を330円とすることで市民の皆様の利用負担を軽減し、買物代行事業の利用促進を図ります。

<https://www.city.tsukuba.lg.jp/jigyosha/oshirase/1012984.html>

●タクシーによる買物等の代行サービスが1回500円でご利用できます！！お買物やテイクアウトの受取など、タクシーがお手伝い！！【五條市】

五條市では、新型コロナウイルス感染症の影響等で外出を自粛している人や、外出が困難な人への救援事業として、タクシー会社が買物や飲食店のテイクアウト品の受取など、外出が必要な用件を代行するサービスを開始しました。

https://www.city.gojo.lg.jp/kenkou_fukushi/korona/shienhojo/9703.html

●蒲郡市と日産自動車、電気自動車を活用した「災害連携協定」を締結【蒲郡市、日産自動車、東愛知日産自動車】

蒲郡市と日産自動車株式会社、ならびに、東愛知日産自動車株式会社の3者は、2020年8月4日、電気自動車を活用した「災害連携協定」を締結しました。

<https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/release-29ec0f6ab3c94f1a2e6ad33f220bd469-200804-01-j>

●所沢市と日産自動車、電気自動車を柱とする連携協定を締結 ～電気自動車の活用によりSDGs達成に貢献～【所沢市、日産自動車、埼玉日産自動車、日産サテオ埼玉、日産プリンス埼玉販売】

所沢市と日産自動車株式会社、埼玉日産自動車株式会社、株式会社日産サテオ埼玉、日産プリンス埼玉販売株式会社の5者は、電気自動車に係る事業の周知、普及啓発、環境教育活動、電気自動車による避難所等への電力供給に取り組む、「電気自動車に係る連携協定」を8月3日に締結しました。

<https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/release-bf71f3ea34e8173c8f0e2223010bbddd-200803-00-j>

●小田原市と日産自動車、持続可能な地域社会、SDGs の達成に向けた連携を発表【小田原市、日産自動車、神奈川日産自動車、日産サテオ湘南、日産プリンス神奈川販売】

小田原市と日産自動車株式会社、神奈川日産自動車株式会社、株式会社日産サテオ湘南、日産プリンス神奈川販売株式会社の5者は、小田原市が掲げるSDGs達成に向けた電気自動車(EV)活用について連携することを7月31日に発表しました。

<https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/release-bf71f3ea34e8173c8f0e22230102912d-200731-02-j>

●豊橋市と日産自動車、電気自動車を活用した「災害連携協定」を締結【豊橋市、日産自動車、東愛知日産自動車】

豊橋市と日産自動車株式会社、東愛知日産自動車株式会社の3者は、電気自動車を活用した「災害連携協定」を7月28日に締結しました。

<https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/release-1baf18d008566039d0ed6594e0005221-200728-02-j>

●陸前高田市、日産自動車、東北、「電気自動車を活用した持続可能なまちづくりに関する連携協定」を締結 ～東日本大震災から10年を迎える復興のまちでの、安心・安全なまちづくり推進～【陸前高田市、日産自動車、岩手日産自動車、盛岡日産モーター、日産プリンス岩手販売、日産チェリー岩手販売、東北】

陸前高田市、日産自動車株式会社、岩手日産自動車株式会社、盛岡日産モーター株式会社、日産プリンス岩手販売株式会社、日産チェリー岩手販売株式会社及び東北株式会社の7者は、7月28日に「電気自動車(EV)を活用した持続可能なまちづくりに関する連携協定」を締結しました。

<https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/200728-01-j>

●三菱自動車、北海道音更町と災害時協力協定を締結【音更町、三菱自動車、帯広三菱自動車販売、十勝三菱自動車販売】

三菱自動車工業株式会社は8月3日、音更町、帯広三菱自動車販売株式会社、十勝三菱自動車販売株式会社と災害時協力協定を締結しました。音更町に立地する三菱自動車の十勝研究所では、寒冷地向けに開発する自動車のテスト走行などを行っており、重要な開発拠点となっています。協定締結を機に、災害時の協力体制も一層強化されます。

<https://www.mitsubishi-motors.com/jp/newsrelease/2020/detail5452.html>

●PASMO、2020 年中に Apple Pay™へ対応します ～iPhone や Apple Watch で、「PASMO」をより便利に～【PASMO 協議会】

PASMO 協議会は、2020 年中に Apple Pay™において、PASMO を利用可能とすると発表しました。交通系 IC カード PASMO と同様に、電車やバスの交通利用や電子マネーで買い物ができるようになり、ますます便利に PASMO を利用可能になります。

https://www.pasmo.co.jp/pressrelease/pdf/apple_PressRelease_August6%2C2020.pdf

●ピクサーデザインの新幹線が 9 月 12 日(土)より運行開始！『GO！WAKU WAKU ADVENTURE with PIXAR』【JR 九州】

九州旅客鉄道株式会社は、ピクサー・アニメーション・スタジオを代表する、世界初のフル CG 長編アニメーション映画『トイ・ストーリー』の公開から 25 周年を迎えた今年、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社とプロモーション・ライセンス契約を結び、ピクサーの仲間たちがデザインされた九州新幹線で、旅の魅力を伝える『GO! WAKU WAKU ADVENTURE with PIXAR』プロジェクトを、9 月 12 日より実施します。

https://www.jrkyushu.co.jp/common/inc/news/newtopics/_icsFiles/afieldfile/2020/08/17/Newsrelease-200817.WakuWakuAdventure.pdf

●阪急×阪神×東急が協働 ラッピング列車「SDGs トレイン 2020」を 9 月 8 日(火)より運行します！ ～再生可能エネルギー100%の列車で、SDGs の達成に向け多様なメッセージを発信～【阪急阪神ホールディングス、東急グループ】

阪急阪神ホールディングス株式会社と東急グループは、SDGs の達成に向け多様なメッセージを発信するラッピング列車「SDGs トレイン 2020」を、国や自治体・企業・市民団体等と連携して、9 月 8 日から同時に運行します。この列車は、阪急電鉄・阪神電気鉄道・東急電鉄の最新の省エネ車両を使用するとともに、走行にかかる電力をすべて(実質的に 100%)再生可能エネルギーで賄います。

https://www.tokyu.co.jp/image/news/pdf/20200806_1.pdf

●お客様により安心してご利用いただくために全車両に抗菌・抗ウイルス加工を実施します【京成電鉄】

京成電鉄株式会社では、より安心して電車を利用してもらうため、スカイライナーをはじめとする全車両を対象に、2020 年 8 月 7 日から順次、乗客が手を触れる箇所(つり革・手すり・座席)を中心にコーティング加工を実施しています。

新型コロナウイルスへの具体的な効果については不明ですが、これによって一般的な抗菌・抗ウイルス効果が期待できます。さらに、今後の定期的な車内消毒については、コーティング剤の成分に加え、新型コロナウイルスへの効果が期待される界面活性剤、有機系抗菌剤を配合した薬剤を使用し、噴霧による消毒を実施します。なお、乗客にコーティング加工済みの車両が一目で分かるよう、車内に「抗菌・抗ウイルス施工済」のステッカーを掲示しています。

https://www.keisei.co.jp/information/files/info/20200731_125152970109.pdf

●日本で初めて公共交通機関の車内に Visa のタッチ決済を導入！ ～Visa のタッチ決済、茨城交通の高速バスで利用可能に～【三井住友カード、ビザ・ワールドワイド・ジャパン】

三井住友カード株式会社とビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社は、次世代決済プラットフォーム「stera」を活用した、公共交通機関への決済ソリューションを提供しています。その第一弾として、7月29日より、株式会社みちのりホールディングスと共に、茨城交通株式会社が運行する勝田・東海～東京線の高速バスで Visa のタッチ決済の取り扱いを開始しました。公共交通機関の車内における Visa のタッチ決済の導入は日本初となります。

<https://www.visa.co.jp/about-visa/newsroom/press-releases/nr-jp-200721.html>

●「WAON」を活用した路線バス運賃決済サービスなどが評価「北海道公共交通利用促進運動」の表彰について【イオン北海道】

イオン北海道株式会社は、釧路市や帯広市、紋別市にて実施している、イオンの電子マネー「WAON」を活用した路線バス運賃決済サービスの取り組みが評価され、7月30日に、北海道鉄道活性化協議会が推進する「北海道公共交通利用促進運動」に係わる「民間企業の部」で表彰されました。

https://www.aeon-hokkaido.jp/control-panel/wp-content/uploads/2020/07/news_20200730a.pdf

●信州大学と WILLER が地域モビリティシステムの共同研究を開始 ～実用性の高いサービス実現を目指し、長野県内市町村に向けた MaaS ソリューションを提案～【信州大学、WILLER】

信州大学と WILLER 株式会社は、長野県内市町村における地域毎の課題解決のための MaaS ソリューションを提案することを目的に共同研究を開始しました。

https://www.willer.co.jp/news/press/2020/0806_4123

●三菱ふそう 新しい生活様式に対応する大型路線バスへの新型コロナウイルス対策：雨天時の車内換気を促進するウインドバイザーを発売【三菱ふそうトラック・バス】

三菱ふそうトラック・バス株式会社は、大型路線バスにおける新型コロナウイルス対策に向けた新しい生活様式として、雨天時の窓開放中に雨水の侵入を防止し、車内換気を可能にする「ウインドバイザー」の発売を開始しました。

<https://www.mitsubishi-fuso.com/ja/news/2020/07/28/%e4%b8%89%e8%8f%b1%e3%81%b5%e3%81%9d%e3%81%86-%e6%96%b0%e3%81%97%e3%81%84%e7%94%9f%e6%b4%bb%e6%a7%98%e5%bc%8f%e3%81%ab%e5%af%be%e5%bf%9c%e3%81%99%e3%82%8b%e5%a4%a7%e5%9e%8b%e8%b7%af%e7%b7%9a%e3%83%90/>

●「道の駅なみえ」に純水素燃料電池システム「H2Rex™」を納入 ～「福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)」からの水素を活用～【東芝エネルギーシステムズ】

東芝エネルギーシステムズ株式会社は、8月1日に一部施設がオープンした福島県浪江町「道の駅なみえ」向けに、純水素燃料電池システム「H2Rex™」を納入しました。本システムは、7月に本格稼働した世界最大級となる水素製造装置を備えた「福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)」で製造された水素を利用し、需要に応じて電力を供給、またその過程で発生する熱も有効活用するもので、2020年10月頃に稼働予定です。

https://www.toshiba-energy.com/info/info2020_0803.htm

●電気自動車をバーチャルパワープラントのリソースとして活用する V2G ビジネス実証事業の試験運転開始について【東京電力パワーグリッド、三菱自動車、日立システムズパワーサービス、静岡ガス】

東京電力ホールディングス株式会社を含む30社は、経済産業省が(一社)環境共創イニシアチブを通じて公募する実証事業「令和2年度需要家側エネルギーリソースを活用したバーチャルパワープラント構築実証事業費補助金(VPP アグリゲーション事業)」を活用し、実証事業を開始しました。

この実証のうち、東京電力ホールディングス株式会社、東京電力エナジーパートナー株式会社、東京電力パワーグリッド株式会社、三菱自動車工業株式会社、株式会社日立システムズパワーサービス、静岡ガス株式会社の6社にて取り組む、電気自動車を活用したV2G(Vehicle to Grid)ビジネス実証事業について、2020年8月6日より実証設備の試験運転を開始しました。

<https://www.mitsubishi-motors.com/jp/newsrelease/2020/detailk806.html>

●日産自動車、横浜みなとみらいに、体験型エンターテインメント施設「ニッサン パビリオン」をオープン【日産自動車】

日産自動車株式会社は、同社が描く未来のモビリティ社会をインタラクティブに体感できる、体験型エンターテインメント施設「ニッサン パビリオン」を2020年8月1日より10月23日までの期間限定で、横浜みなとみらい21地区にオープンしました。

「ニッサン パビリオン」では、日産の電動化・自動運転化等、「ニッサン インテリジェント モビリティ」が描く未来のモビリティ社会を、さまざまなコンテンツを通じて、体験することができます。

<https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/release-c3395c387d7963b430589b008700fb2f-200731-01-j>

●密を避けた移動の選択肢にシェアサイクルを。複合経路検索サイト「mixway」、新機能リリース ～「自転車の利用距離の設定」「シェアサイクル利用経路だけ探す」機能を実装～【ヴァル研究所】

「駅すばあと」を提供する株式会社ヴァル研究所は7月27日、複合経路検索サイト「mixway(ミクスウェイ)」において、密を避けた移動ができるシェアサイクル向けの検索補助機能「自転車の利用距離の設定」「シェアサイクル利用経路だけ探す」をリリースしました。

<https://www.val.co.jp/topics/2020/072701.html>

●NY市長 レストランの屋外飲食プログラムを来年も実施することを発表【ニューヨーク市】

ニューヨーク市のデブラシオ市長は8月3日、街路での屋外飲食プログラム「オープン・レストラン」(Open Restaurants)に関して、来年6月に再開すると発表しました。市では現在約9000を超える店舗がこのプログラムに登録しており、6月以来、市の約8万人の雇用を守ることに繋がっています。オープン・レストランは2021年6月1日までに再開され、10月31日まで開催が予定されています。

また、市はオープン・レストランとオープンストリート(街路の歩行者空間化プログラム)を組み合わせ、都市の魅力の再生を図る、としています。

<https://www1.nyc.gov/office-of-the-mayor/news/563-20/mayor-de-blasio-open-restaurants-will-return-next-summer>

4. イベント情報

●エコプロ Online2020 ～持続可能な社会の実現に向けて～

日時:2020年11月25日(水)～28日(土)10:00～17:00

場所:オンライン開催

主催:日本経済新聞社、(一社)サステナブル経営推進機構

<https://eco-pro.com/2020/>

●第18回 ITS シンポジウム 2020 新たな価値を創造する ITS ～安全、安心、豊かな地域社会の実現に向けて～

日時:2020年12月10日(木)～12月11日(金)

場所:松山市総合コミュニティセンター(現時点ではオンライン参加も可能としつつ開催予定)

主催:(特非)ITS Japan

https://www.its-jp.org/event/its_symposium/18th2020/

●第27回鉄道技術・政策連合シンポジウム(J-RAIL2020)

日時:2020年12月15日(火)～12月17日(木)

場所:オンライン会議(システムはZoomを予定)

主催:(公社)土木学会

<http://133.43.106.35/~kaneko/jrail2020index.html>

●長野電鉄 こども(小学生)無料乗車デー

日時:2021年1月1日(金・祝)～1月3日(日)

始発列車～最終列車まで

場所:長野電鉄全線

主催:長野電鉄

<https://www.nagaden-net.co.jp/news/2020/07/child-free-day.php>

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://mm-education.jp/magazine.html>

- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/nev/nev_top.html

- 「運輸・交通と環境」を発行しています！

(日本語版)

<http://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyou/index.html>

(英語版)

<http://www.ecomo.or.jp/english/tej.html>

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecomor.jp(担当:中道)

発行:環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>